

芦田川さかなマップ

府中大渡橋

調査した場所
田畑の間に家がまばらにあるような場所。比較的水はきれいで、川幅は広く、水の流れは早い。川の中に州がたくさんあり、草が茂っているため、水辺の生物にとて生きやすい環境だといえる。見かける魚の種類が多く、アカザも見られる。川岸が整備された、川の中に入りやすくなっている。



アユ
本州全域に住んでいる。天然アユは減少しているため、琵琶湖などから稚魚を取り育てて放流している。石の表面に付いている藻を食べる。中流に多くいる。



カワムツ
本州中部以西に生息しているが、現在では関東地方でも見られる。河川の上、中流や流れのゆるやかな瀬に多くいる。なわばり意識が強く雑食性で昆虫や藻など食べる。太い一本の暗色の縦線があるのが特徴。



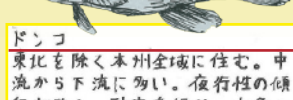
オオクチバス(別名: ブラウバス)
北アメリカ原産で、今では国内のほぼ全域に分布している。止水や流れのゆるやかな河川に生息し、大きな口で魚類や甲殻類を食べる。体側から背にかけて不規則な暗斑があり、腹側が黄味を帯びた白色になっているのが特徴。特定外来種に指定されている。



アカザ
宮城県・秋田県以南の本州、四国、九州に広く分布する。水が比較的きれいな川の中流から上流下部の瀬の石の下や間にすみ、石のすき間をかくぐくぐするように泳ぐことが多い。背びれに一本、胸びれに一本がついた大きなトゲがあり、トゲには毒線があるのでさされると痛い。芦田川水系での生息数はきあめて少ない。



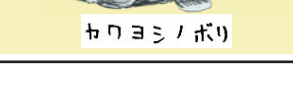
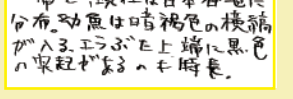
ズナガニゴイ
近畿地方以西の限られた川にしかいない。川の中流から下流域に分布し流れのゆるやかな川底に生み砂にもぐって水生昆虫などを食べる。普通のニゴイよりも体が小さいが頭と吻は長く、体側に小黒点の列がある。



ドンコ
東北を除く本州全域に住む。中流から下流に多い。夜行性の傾向が強く、砂底を好み、小魚・エビ・カニ・水生昆虫を食べる。広島県内では減少しているが、芦田川水系では、比較的安定した個体群がいる。



アヒレギシ
原産地は北アメリカ中東部一帯で、現在は日本各地に分布。幼魚は暗褐色の模様が、成魚は上端に黒色の縦線がある。ハナハナ。



ギギ
本州中部以南、四国、九州の東部に分布し、比較的水がきれいで、石や流水、石垣などがあるところで見られる。背びれと胸びれのとげが鋭達して、さされると激しく痛む。つかまると胸びれでギューギューと泣く。



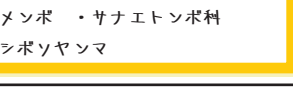
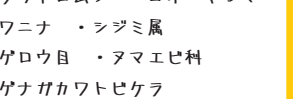
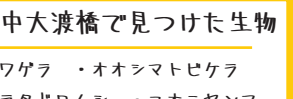
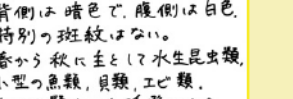
ムギツク
琵琶湖以西の本州と、九州北部に分布し、大きな石があるようなところのよとみにいる。小さなあひら口状上向きについている。すぐ暗がりにかくれてしまう。石についている水生昆虫を食べる。



ヤリタナゴ
北海道と南九州を除く各地に生息し、平野部の細流や用水路上部などの水の流れのある所にいる。ソウ類をよく食べマツササガイやイシガキに産卵する。銀白色で体幅が著しく狭く、背びれに黒い斑点がある。

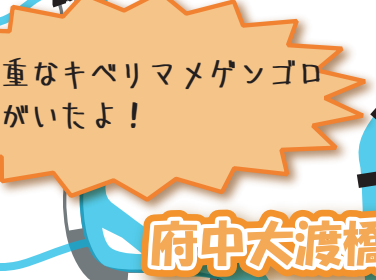


ウナギ
太平洋側は北海道の日本海側以南、日本海側は石狩川以南の日本各地に分布する。背側は暗色で、腹側は白色。特別の斑紋はない。春から秋に至ると水生昆虫類、小型魚類、貝類、エビ類、カエル類などを活発にとり、成長する。



府中大渡橋で見つけた生物

- カワゲラ ・ オオシロシロ
- ヒラタドROMン ・ コオニヤンマ
- カワニナ ・ ラジミ属
- カゲロウ目 ・ マメビ科
- ヒゲナガカワトビケラ
- アメンボ ・ サナエトンボ科
- コンボソヤンマ

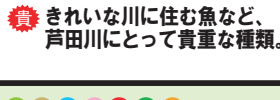


水質調査結果(バックテスト等) 調査日: 2021年10月26日			
項目	地点名		
	芦田川	府中大渡橋	出口川
調査日	10月26日	10月26日	10月26日
時間	10時10分	11時00分	
気温(℃)	18℃	22℃	
水温(℃)	15℃	15℃	
透明度	100cm以上	80cm	
pH	7.75	7.65	
COD (mg/l)	1.5mg/L	1.5mg/L	
亜硝酸 (mg/l)	0.02mg/L	0.02mg/L	
リン酸 (mg/l)	0.05mg/L	0.02mg/L	

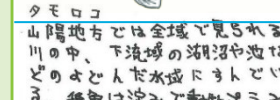
2021年10月26日作成

凡例 確認マーク(○印)は左側が最新年度です。

- 2021年 ●2015年 ●2009年
- 2020年 ●2014年 ●2008年 (特) 特定外来種
- 2019年 ●2013年 ●2007年
- 2017年 ●2011年 ●2006年
- 2016年 ●2010年 ●2005年



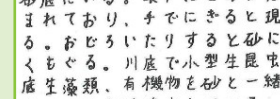
タモロコ
山陽地方では全域で見られる。川の中、下流域の沼や池などのよとんだ水辺にすみでいる。稚魚は泳いで植物プランクトンを食べ、1年で成長し、成魚は動物質を中心とした雑食。以前は池などに多くいたが最近では見られなくなっている。



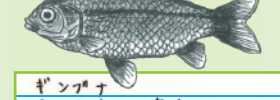
オオシロシロ
本州、四国、九州の一部に分布し、冷たく水のきれいな水場の砂底にいる。眼下にとげがたまたまれており、手で触ると現れる。おぼろいたりすると砂によくもぐる。川底で小型水生昆虫、底生藻類、有機物を砂と一緒に食べ、砂かけをえている。



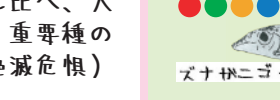
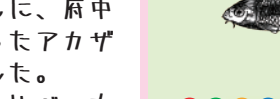
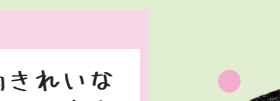
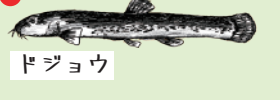
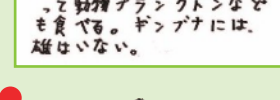
ギンブナ
全国各地に分布する。川の下流の淀みや、平地の低湿地や沼地に生息する。雑食性で底生動物および藻類などのほか、場所によっては動物プランクトンなども食べる。ギンブナには、雄はない。



ドジョウ
全国各地に分布する。川の下流の淀みや、平地の低湿地や沼地に生息する。雑食性で底生動物および藻類などのほか、場所によっては動物プランクトンなども食べる。ドジョウには、雄はない。



オオクチバス
北アメリカ原産で、今では国内のほぼ全域に分布している。止水や流れのゆるやかな河川に生息し、大きな口で魚類や甲殻類を食べる。体側から背にかけて不規則な暗斑があり、腹側が黄味を帯びた白色になっているのが特徴。特定外来種に指定されている。



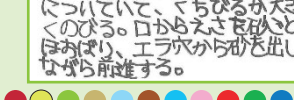
まとめ

出口川では、カワムツなど、比較的きれいな水質にすむ生き物が見つかったとともに、府中大渡橋では、出口川で見つからなかったアカザなど、様々な種類の魚が見つかりました。種数は魚類・底生動物とも前年度に比べ、大きな変化は見られなかった。新たに、重要種のキベリマメゲンゴロウ(環境省R1絶滅危惧)が確認できた。また、両地点とも水質は良好でした。

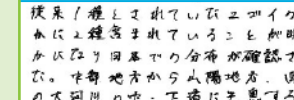
調査した場所
出口川は町の中をながれていて、生活排水が流れこむ川である。川岸には草が茂く生えているが、頻りに釣り込みが行われていて、魚のすみが減っている。川幅が狭く流れが早い。川底は砂が積み重なって魚の種類が多く、カワヨシノボリが定着している。



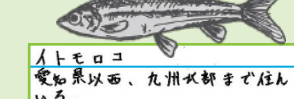
カマリカ
本州、四国、九州に分布し、用水路の砂や石の川底で流れのゆるやかな場所で見られる。口が下向きについていて、くちびるが大きい。口からえさを吸いとる。エラがからがで出し、なでる。



コウライニゴイ
関東以西の本州、四国、九州に分布し、河川中・下流域および湖沼に広く生息する。稚魚で付着藻類から水生昆虫や藻などを食べる。また、成魚にもなる。食性は雑食性で、藻類や水生昆虫、水生植物などを食べる。産卵期には、産卵色が出て、とてもきれいだ。



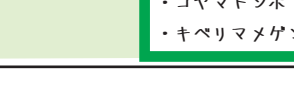
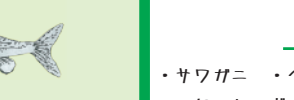
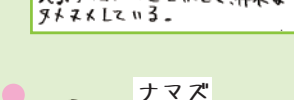
イトモロコ
愛知県以西、九州北部まで生息している。中流から下流に多い。芦田川では、比較的上流側に分布しており、支流の奥まで多数生息していることが確認されている。



タナゴ
本州以西に広く分布し、池、水田や用水路、河川の下流域などに生息する。雑食性で底生動物および藻類などのほか、場所によっては動物プランクトンなども食べる。タナゴには、雄はない。



ナマズ
日本海側では富山県以西、太平洋側では静岡県以西の本州、四国、九州に分布し、上流部の植物の根や石などにすみ、カワムツがともく、体長はメタメタしている。



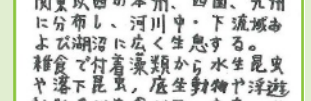
出口川



カワヨシノボリ
中部地方以西の西日本に住む。上流部の流れのゆるやかな所にすみ、藻類や小型の水生昆虫を食べる。止水域ではなぜか生息できない。



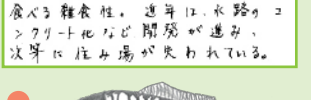
オイカワ
関東以西の本州、四国、九州に分布し、河川中・下流域および湖沼に広く生息する。稚魚で付着藻類から水生昆虫や藻などを食べる。また、成魚にもなる。食性は雑食性で、藻類や水生昆虫、水生植物などを食べる。産卵期には、産卵色が出て、とてもきれいだ。



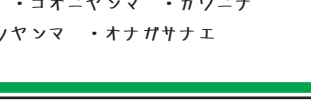
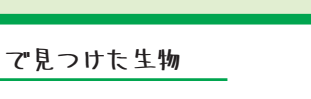
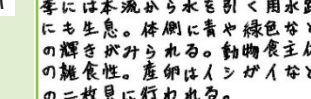
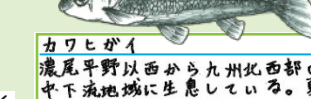
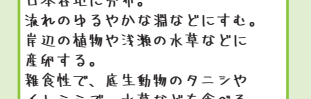
メダカ
本州以西に広く分布し、池、水田や用水路、河川の下流域などに生息する。雑食性で底生動物および藻類などのほか、場所によっては動物プランクトンなども食べる。メダカには、雄はない。



コイ
日本各地に分布。流れのゆるやかな瀬などにすみ。周辺の植物や藻類の水草などに産卵する。雑食性で、底生動物のタニシやイトミミズ、水草などを食べる。



カワヒガイ
濃尾平野以西から九州北西部の下流域域に生息している。夏季には本流から水を引く用水路にも生息。体側に青や緑色などの輝きが見られる。動物農主体の雑食性。産卵はメダカなどの二枚貝に行われる。



出口川で見つけた生物

- サワガニ ・ ヘビトンボ ・ コオニヤンマ ・ カワニナ
- コヤマトンボ ・ コシボソヤンマ ・ オナガサナエ
- キベリマメゲンゴロウ